54 明治12年11月16日　菊池長閑

第十一号十一月十六日

第十号九月七日附第十一号同廿二日附両翰壱月三十日達クリン姉我等夫妻之写真望之由事易敷なから一枚もなし此元にも中山と申写真師あれとも何之訳か面中大切之鼻ハ不分明ニ写り外国杯エ遣しにハ堪忍成かたし我等夫婦可笑顔間□□鼻まてなき様ニ而ハ貴様之外聞気之毒ニも成り可申併当夏頃東京へ行稽古いたしたと申事なれハ其手際ニより為写候事もあるへし宜申訳致おくへし」お波エ之返書ハ此頃之便エ出し遣したり

御祖母様当年八十ニ被為成不相変御壮健故御敬賀いたし度当春ゟ心懸たるに東京注文物行違之事ありて大ニ延引本月二日ニ祝上ケたり此秋ハ如何なる候なる也十月初より三日と好晴続く事

なく多分不天気勝なるに二日ハ殊更近頃珍ら敷好晴にて午後ハ障子開きたり来客壱人も断なく打揃諸事都合相済大慶せり殊更難有事ハ此敬賀之事正五位様御聞ニ達しお波まて被下物有之本月一日ニ達し思ひならさる御頂戴物まて御祖母様別而御大慶我等まて難有遥拝せり是を三方へ載せ床の間ニ飾置来客へ風□せし処皆人ニ浦やまれ候本日之手続概略記す

来客左之通

星川正甫　鴨澤恒升（忠景事）　四戸清吉（清九郎事）　小村克己

米田夏機　星川吉響（正国事）　高浜正司（正甫二男）　藤田彬郎

山本緑　道又金吾（享三男）　村井道雪（弥兵衛事）

太田祖母（孝母）　八木橋祖母（克己姉）　御祖母様　川村祖母（川村慎平姉）　藤田おミ輪様　工藤お八十　長澤おきん　横田お千勢様

右男女両側家座ニ不関年順ヲ以テ列ス四戸と村井ハ他人なれとも取持ニ頼入太田八木橋ハ頓而他人なれとも老年なり太田ハ近頃御祖母様御懇意被遊候故招之此両人ハ年順ニ不抱列ス茶菓子一同ェ出し畢而御祝物差上る

一、三方長熨斗　長閑

一、黒縮緬御羽織　紋菊水　同人ゟ

木綿八丈御綿入御下着共

一、御肴料金五円　武夫ゟ

右毛氈ェ載南天打抜添短冊ともお多代持出し長閑請取差上る其歌

。之事ハ薄衣なからたらちねの八十ちに千代の数を重ぬる

一、菱絹裏付御腰半　お多代ゟ

但襟白綸子袖白ちりめん

一、黄木綿　壱反　政国ゟ

一、鼈甲御櫛笄　是ハ東京ェ注文下したり

おえき

およしゟ

おすミ

一、胴締　一

銀簪　一本　お波ゟ

右政国持出しお多代受取差上此処にて家内一同揃祝言申上之おすミより短冊にて〇

一、めいせん縞　一反　藤田彬郎ゟ

一、染木綿　同　同　おこわ様ゟ

一、小袖綿　五包　同　おのふ　おうめゟ　おとめ

一、扇子　二握　同　愛麿　おあさ　ゟ

右一台ニ裁セおミ輪様御持出上る①

一、袋綿　一　横田お千勢様ゟ

一、御肴料　弐拾銭　同　末次郎ゟ

一、御座布団　同　おしほ　おかめ　ゟ

右壱台ニ裁セお千勢様前同断△

一、黄木綿　壱反　山本緑ゟ

右本人前同断

（注記２）

一、手拭　一　道又金吾〆
一、羽織ひも　一懸
鼻紙　五帖

右前同断

一、洋酒　壱瓶　星川正甫様〆
一、短冊

八度おく霜ニ老せぬ　見えてさかえ久しき

きくの花園

一、小袖綿（ちりめん）　二包　川村おしけ様〆
一、服紗　一
一、黄木綿　壱反　鴨澤恒升〆
一、御菓子
一、小袖綿　三包　北村克已〆
一、御肴料　拾銭ツヽ　米田貞機　星川吉響〆
一、同　二銭　高浜正司〆
一、絹色糸　四戸清吉〆
一、小袖綿　五包　八木橋祖母　高ヤおきを〆
一、同　二包　工藤おやそ〆
一、御菓子　一箱　長澤おきん〆

右持出披露畢而次ノ間（元玄関工）飾付相済此処にて祖母様我等夫婦〆差上候のニ御召替おゑき初メお波〆差上候品々何れも御用ひ一同ヱ御挨拶被遊座敷ヱ御直り但前記之外肴又ハ重菓子等贈来り候得共略し記さす

指身　薄ミそ
向　白髪大根（しらがだいこん）　岩たけな
吸物　輪大根（すゝきうとめ）

生醤油
口取　海老よせ（かまぼこ）　葉生か

右にて酒二献相済此処にて御祖母様一同ヱ御酌御祝儀として手拭壱本ツヽ被遣（手拭模様流に菊花二ツ新キ注文染）相済中ノ間ニ於て助合人数并下々之者迄同壱筋ツヽ被下畢而雛鶴三番壱曲（三弦千代鶴芸人なりと申）

肴　ひたす　たこう
茶碗　にわとり　雪の下　かたくりめん　芹
肴　きくの花
同　いわ鳥　いもの子　こんにゃく
小椀　わさひ　結ひ半へむ　松の実　のし梅
酸物　鮭ひち　花にんちん　抜栗
硯　かまぼこ　鮭小串　更科玉子　あわひ
蓋　擂巻　ありの実　白ふとう

右午後三時〆始り夜ニ入たり始は星川之御叔父様真詰なれとも

追々酔廻るに随ひくつろき出て父子兄弟従兄弟姉姪ともなく銘々芸尽となり末にハ男女共ニ惣踊にて退散也我等ハ当春より心懸たるに何一ツ不都合なく殊更好天気夜ニ入ても静なれハ実ニ満悦近年に覚なき大酔何か働たるや来客之帰るも知らす只翌日ニ至左右之股遠足をし如くこきしやきと痛むのミ覚たり翌朝ゟ子供等店卸被致大ニ赤面せり推笑あるへし翌三日ハ右之残物ヲ以一条平塚小野善十郎善八郎子供鍵屋茂兵衛井筒屋弥兵衛鍵屋新蔵相招翌四日ハ出入之者共相招酒肴不出其料として拾銭ツヽ手拭ヱ添遣し田屋之者ハ時節柄閙敷故別に招かす来る序ニ前同様ニ致遣し七日ニ新庄御邸ヱ東京ゟ御頂戴物御受ニ御祖母様御上り被遊候処成姫様より御短冊并小袖綿御手自被下女中方へ手拭壱本ツヽ御土産被遣候処其答礼ニ七ツ組之盃御貰被成候此節御祖母様御召ハ縞八丈ヱ縮緬御羽織東京より御頂之御帯御用也成姫様より被下候御歌

とるへき八十路の坂ハふもとにて
猶百とせもへなんとそ思ふ

三日之朝出入之紺屋別用ニ而来り手拭と酒肴料遣したる処直ニ金唐紙携来り宝珠御調被下度旨御祖母様へ願出ニ而直ニ御調被遣候殊ニ御出来ニ候

寿

八十歳
喜せ女書

右之通ニ候詩歌之内老祝上可申候以上

武夫殿　　長閑

(注記1)
「ゟおすミゟ短冊
敬こ八十ちなりけれすこやかハ猶ゆく末の千代も見えけり
①彬郎より
八十ちをハ麓になして千年山猶も今日より登る君哉
千代経とも変らさりまし姫松のミさをに契る君かよはひは
△此日横田之庭ニ菖蒲の返り咲出たり今日之御祝にもかなひ又珍らしけれハ送られたり直ニ花活ニさして床間ニ飾たり右花送らるゝとて於千勢様ゟ
たらちねの今の御年ハ千代にけて
あやめのやうに咲かへるらん」

(注記2)
「小川町御邸におすミとて溝口様より被為入候御前様御附ニ而来り尓今勤居る人なり此人も敬賀ヲ承リ右御前様ゟ頂戴之由ニ而鼈甲之楊枝送られ候是等も思ひよらぬ事也是等も皆お波勤居内へと大慶と存候右おすミにハお波大ニ世話ニ成居よし頂戴物御答礼之心ニ而御祖母様御手自ら績糸ヱ真綿弐百目外女中方へ手拭弐本ツヽ為登候
一、手拭惣数百拾弐本入用ニ成りたり百本あれハ十分と積り十反染注文せしに行違廿反来り是か為メ一様之品送る事ニ成り候」

十一号ヱ附録

およし事種房嗣子豊川痴疑雄(チヤヤオ)ヱ後妻相談ニ相成昨夜差遣候抑此事之起りたるは一昨十七日午前十一時頃突然媒酌人来り申入尤熟談之上ハ今晩即十七日なり引取度と之事至急之子細ハ聟ハ遠野郡役処書記勤居此度帰県多分十八日出発ニ此度差延せハ来年二月ならてハ帰る期なきニよりて之事ニ相聞得先方情実尤なれとも即

日之事ニハ至急旨媒人まて申向候処最一日ハ差延ニよきかも知れすと申豊川家内ハ薄々心得居聟も県庁勤中ハ屈指之一人と兼て承り居故夫丈ハ能かれ共先妻出産女子六才なる者一人あれハ是丈ハおよし存慮次第ニ付両人ヱ申聞候処我等さへ能けれハ宜と申不便もあれとも先方撰ミ居る内姉の如く不都合ニ成りてハ却而当人之不便と存相当之挨拶して翌十八日午後四時ニ遣し候善ハ急ケと申諺之如くそく治まれハ一安心ニ候来春ハおよし丈ハ遠野ニ引越か之噺有之候右不取敢申通候也

十一月十九日記

（封筒表）
「米国ホストン府
菊池武夫殿（消印1）
（消印2）
（武夫注記2）
（武夫注記1）
（消印3）」

（封筒裏）
「大日本岩手県陸中国盛岡
（消印4）外加賀埜八十六番
（消印5）菊池長閑
［　　］平信」

（武夫注記1）
「Mr. T. Kikuchi
c/o Gilbert Attwood Esq.
14 Merchant Exchange
Boston, Mass. U. S. A」
（武夫注記2）
「Ans'd」
（消印1）
「TOKEI JAPAN. 25 NOV」
（消印2）
「YOKOHAMA DEC 13 1879」
（消印3）
「REC'D. IN BOSTON MASS. JAN 7 12 M」
（消印4）
「陸中・岩手・一十・二〇」
（5印消）
「SANFRANCISCO CAL. P. D. ALL DEC 30」